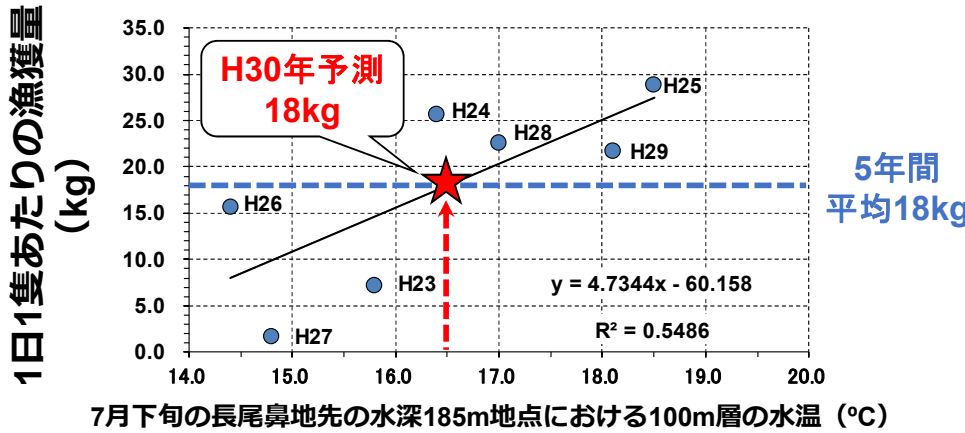


# ソデイカ(赤いか)の漁況予測

平成30年8月10日発行  
発行元:栽培漁業センター

今漁期は「**平年並み**」の見込み  
【1日1隻あたりの漁獲量】  
今漁況予測:18kg(8月10日時点)



- 7月23日の観測では、水温が16.5°Cあり、**H30年に予測される1日1隻あたりの漁獲量は18kg(参考:H29年22kg)。**
- H30年の鳥取県の推定漁獲量は74t(参考:H29年69t)。**

#### 【推定方法】

主な漁法の樽流し漁業者数が、昨年同様62名、操業日数は、極端に漁獲量が少なかったH23、H27年を除いたH24~H29年の平均値である66日間出漁した場合で推定。

- 予測精度がまだ低いため、予測が大きく変わる可能性がある。

これまで、8月下旬の水温と漁獲量の関係を元に漁況予測を行い、情報提供していましたが、近年、時化などによる操業日数の減少や漁船の減少などにより、その関係が変わってきたため、検討を行ったところ、来遊時期と考えられる7月下旬の水温と資源水準(1日1隻あたりの漁獲量)との間により比較的強い関係が見られたため、現時点(8月10日現在)までに分析・情報収集して結果を提供するものです。

※ 赤いかの来遊に関する情報をお持ちの方は栽培漁業センターまでお知らせください。  
(電話 0858 - 34 - 3321 野々村)

## ソデイカ(赤いか)の漁期前試験操業と各地の水揚げ状況

### (1) 漁期前試験操業(8/10栽培漁業センター2隻用船)

約4時間操業し、沖側(水深182~217m)船1隻は30樽使用して1本漁獲(水深209m、重量5kg、胴長49cm)、灘側(水深135~180m)船1隻も30樽使用して1本漁獲(水深157m、重量2.5kg、胴長38.5cm)。両方雄で、胃内容はイカ類。

【状況】鳥取沖ライン134° 09'の水深135~217mを調査し、沖・灘ともに、み潮が強く、約4時間で3~4.5マイル東に流されていた。

### (2) 水揚げ状況(対象期間7/30~8/10:8/10現在)

#### ・賀露地方卸売市場

8/3※1本:胴長20~30cm台

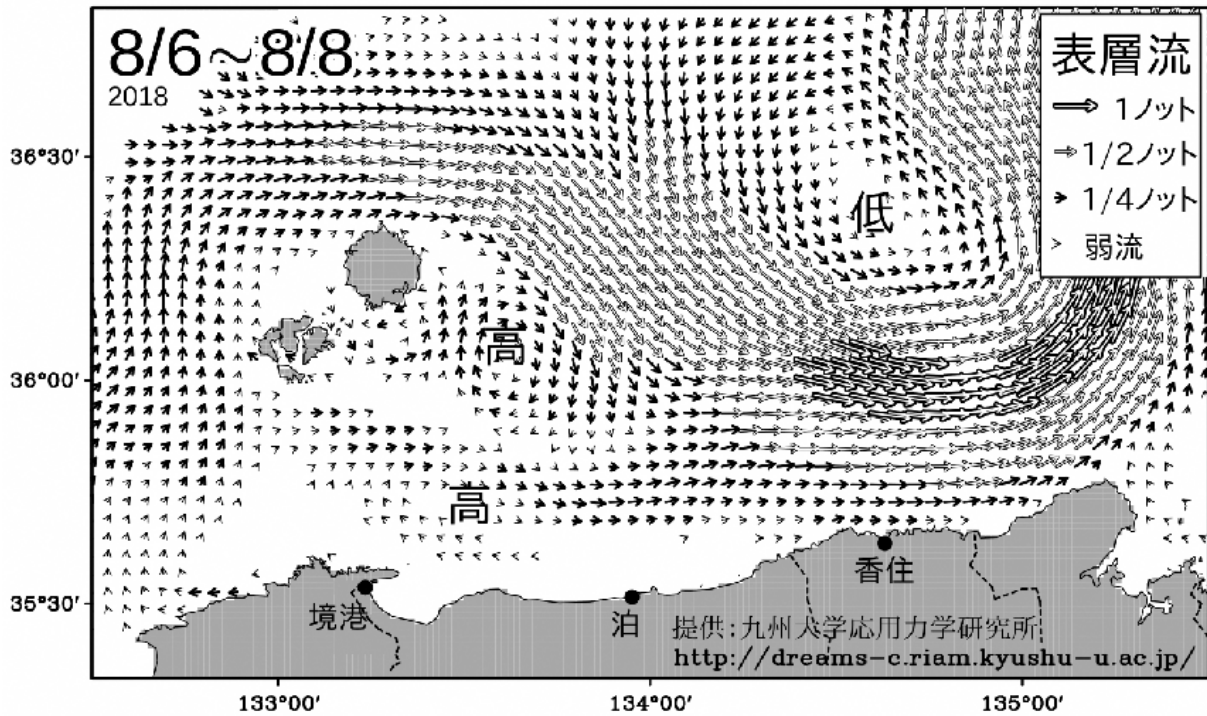
#### ・赤碕町漁業協同組合地方卸売市場

8/8※1本:胴長35cm

#### ・兵庫県但馬水産技術センター

8/3※6kg:サイズ不明

## 【参考】海況予測(表層の流れ)8/7時点予測



このページに掲載されている図は、「九州大学応用力学研究所」と「日本海区水産研究所」が作成したものです。(不許複製・禁無断転載)

## その他参考情報(県内外)

### ■ 県内漁獲情報

・7/23、25、26、27頃に小型のソデイカ(全長約20~30cm)が夏泊や泊の小型定置網に1~2本程度入網⇒小型のソデイカは順調に来遊している模様

### ■ 兵庫県但馬水産技術センターによる長期漁況予報

・今漁期(9~11月)は、過去5年平均と比べて「**平年並み~やや多め**」となる見通し  
・冷水塊の張り出しは「**平年並み**」、対馬暖流域の50m深水温は「**平年並み**」で推移し、漁場形成は**やや沿岸に形成される見込み**

※兵庫県但馬水産技術センターHP「平成30年度日本海ソデイカ(あかいか)長期漁況予報」より  
[http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/suisan/siryou/T\\_rhombus%20forecast%202018-1.pdf](http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/suisan/siryou/T_rhombus%20forecast%202018-1.pdf)

### ■ 沖縄県水産海洋技術センターによる漁獲情報

・今漁期(H29年11月~H30年2月)は、過去5年平均よりも「**高く**」推移

※沖縄県水産海洋技術センターHP「漁獲情報」

<http://www.pref.okinawa.jp/fish/kenkyu/kankobutu/joho-data/jyouhou1802.pdf>

【追記】赤いカの発生海域は、南の熱帯・亜熱帯海域であり、沖縄県の漁獲量は日本一位であることから漁況の参考とするものです。今漁期の日本海への資源の来遊が期待されます。

※本資料には、兵庫県但馬水産技術センターの長期漁況予報、沖縄県水産海洋技術センターの漁獲情報、日本海区水産研究所、九州大学応用力学研究所の流況情報を利用しています。